

SCG066-04

会場:201A

時間:5月22日 11:30-11:45

鎌倉観測点における透水係数の長期連続測定の結果について A continuous and long term monitoring of hydraulic conductivity at Kamakura

角森 史昭^{1*}

Fumiaki Tsunomori^{1*}

¹ 東京大学理学系研究科

¹University of Tokyo

昨年の連合大会で提案した、見かけの透水係数を連続観測する方法とそのデータ解析を紹介し、観測結果について議論を行う。

地震に先行する地下水化学成分濃度の異常変化のうちラドン濃度の変化は、帯水層を構成する岩石種と地下水を含んでいる空隙の構造によって支配されている。このうち、帯水層の透水係数は空隙率で決まることから、ラドン濃度の変化を理解するためには、ラドン濃度と透水係数の同時計測が重要である。

ラドン濃度分析のための間歇採水による水位低下の回復曲線を1時間のインターバルで記録した。この回復曲線から水位回復の時定数を Wylie の式に基づいて計算した。水位回復の時定数と井戸の幾何学的パラメータによって、井戸近傍の見かけの透水係数を求めた。

講演では、計算された見かけの透水係数の時系列の特徴について述べる。

キーワード: 地下水, 透水係数, 連続観測

Keywords: Groundwater, Hydraulic Conductivity, Continuous Monitoring